カ）課題解決に向け導入及び活用したもの

1．プロセス

- 自社の成長に直結するデジタル活用を行うためには、自社に最適なデジタルツールを見つけ出すことが重要ですが、ベストを追い求めて時間をかけすぎるのではなく、現実的で納得できる選択をして素早く歩みだすことが大切と考えています。
- その大切な選択のために、これまでの支援ノウハウを体系化したツールをフル活用して、短時間で事業者が腹落ちするデジタル活用計画を策定しました。

大切な選択をするための準備のステップ

経営方針の整理

デジタル活用方法の基本的理解

デジタルで解決する課題の発見

具体的なデジタル活用計画の策定

デジタルツールの選択

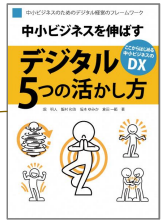
デジタル投資・活用

最も重要なステップ
情報を収集して納得できる選択をする
・インターネット検索*
・展示会訪問
・ITベンダーから話を聞く
・専門家に助言を求める　など

*例）ここからアプリ　https://ittools.smrj.go.jp/
ITreview　https://www.itreview.jp/

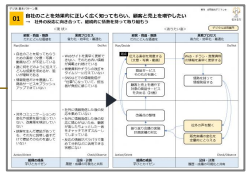
ありたい姿整理シート

デジタル5つの活かし方

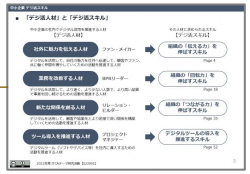


デジトレ診断

デジ活 基本パターン集



デジ活 スキル定義



Copyright, 合同会社デジトレ

カ）課題解決に向け導入及び活用したもの

２．ありたい姿整理シート

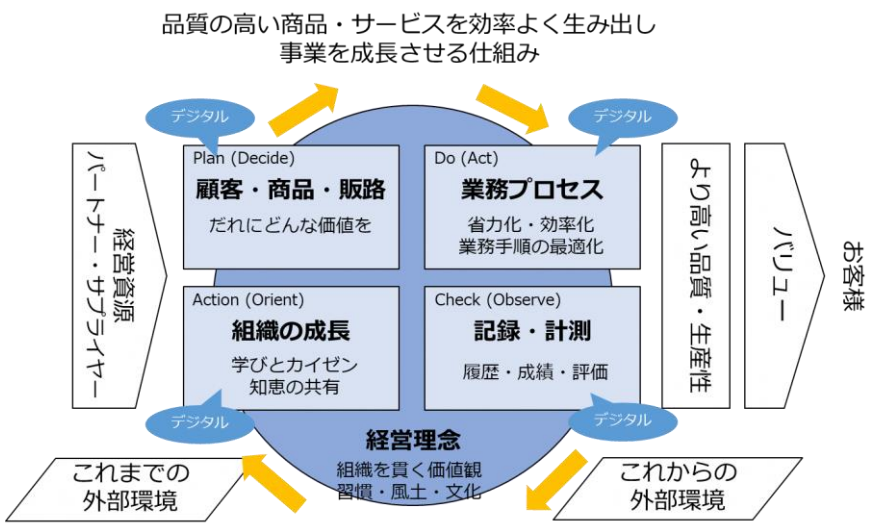
- 経営課題の可視化の方法として「ありたい姿整理シート」を活用しました。
- 自社の強みと課題を、「これまでの成果（例：お客様からの評価）」と「少し先に予想される変化（例：お客様の変化）」の視点から整理し、「ありたい姿」を導き出しました。
- ありたい姿を実現するために必ずすべき事項をPDCAの視点で整理しました。（大玉転がしモデル）
- 単にデジタルツールを導入するだけでなく、記録されたデータの活用や、社員が持つ暗黙知やノウハウの形式知化と社内流通、業務手順の整理統合、ルールや働き方の見直しなど、事業の成長に直結するデジタル技術の活用の方向性を明らかにしました。

ありたい姿整理シート　作例

経営理念	現在地（これまでの成果）		少し先に予想される変化（5年程度先）	
デザインされた景観を創り、地域の暮らしを豊かにする	お客様からの評価	• デザイン性、調達力、施工のスピードを設計事務所から評価されている • 個人向け米国60年代風のガーデン資材が人気	お客様の変化	• 環境に配慮した新資材の調達、メンテナンス性の高い資材・工法の採用、自然エネルギー設備 • 郊外型レジャー施設
	自社の競争力	• デザインに応じた施工の工夫や資材提案、コストダウンが可能な技術力	競合他社の変化	• 廃業や業態転換する同業者も今後増える
	スタッフの力	• 50歳を超えるベテラン3名、30歳と25歳の若手 • 個人向け案件は専務、パート1名 • 副社長（妻）がパート1名と一緒に総務経理	スタッフの変化	• 労働力の確保 • 外注作業員の高齢化 • 新卒・中途の採用

ありたい姿	その未来を実現するための必達目標		デジタルを活かすポイント	優先順位
公共部門のスリム化と質の向上による競争力をさらに強化 「余力」を捻出し、新しい取り組みに積極取り組み ・新素材 ・新工法 ・個人向け事業	P 顧客商品販路	• 新素材や新工法に関する情報収集、試験やトレーニングができる土地の確保 • 設計事務所とより一体的に動ける体制面の整備	つながる力　87 設計事務所との情報共有、まずは当社情報の開示	2
	D 業務プロセス	• コスト削減、体質のスリム化、省力化のための投資 • 現場の負担を抑える施工計画の策定 • 外注作業員の確保	回転力　41、54 従業員満足度の計測	3
	C 記録計測	• 施工状況の可視化による管理最適化 • 資材・道具の使用実績の記録 • スタッフの健康管理	回転力　42、43、50　基礎体力　34 機材や備品の管理、点検を統一 備品の紛失防止	1
	A 組織の成長	• 新素材や新工法に関するスキル育成、多能工化 • 権限移譲して責任持って仕事ができる環境を整える	体幹力　2、4、10、13-15 誰でも機材等の管理、点検をできるように 現場のメンバー中心に機材や備品の管理、保守点検のカイゼン	1

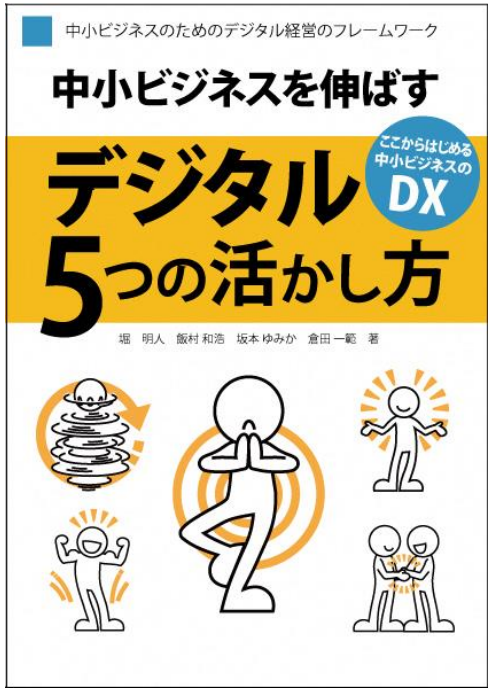
大玉転がしモデル　経営の在り方とデジタル活用の視点



カ）課題解決に向け導入及び活用したもの

３．書籍「中小ビジネスを伸ばす デジタル5つの活かし方」

- デジタルの活用方法について理解を深める教材として本書籍を活用しました（事業者に各一冊を提供）。
- この書籍により、中小企業が「デジタル」という便利な道具を経営にフル活用するための方法・視点として、いま世の中にあるデジタル技術をどう活かせば経営の力とできるのかを整理したフレームワーク「デジタル－５つの活かし方」を紹介しました。
- 中小企業がこれまで実践してきた100以上のIT活用の実例からエッセンスを抽出しており、具体的な事例やケースの解説もあるため、支援の過程で適宜引用して事業者の理解をサポートしました。

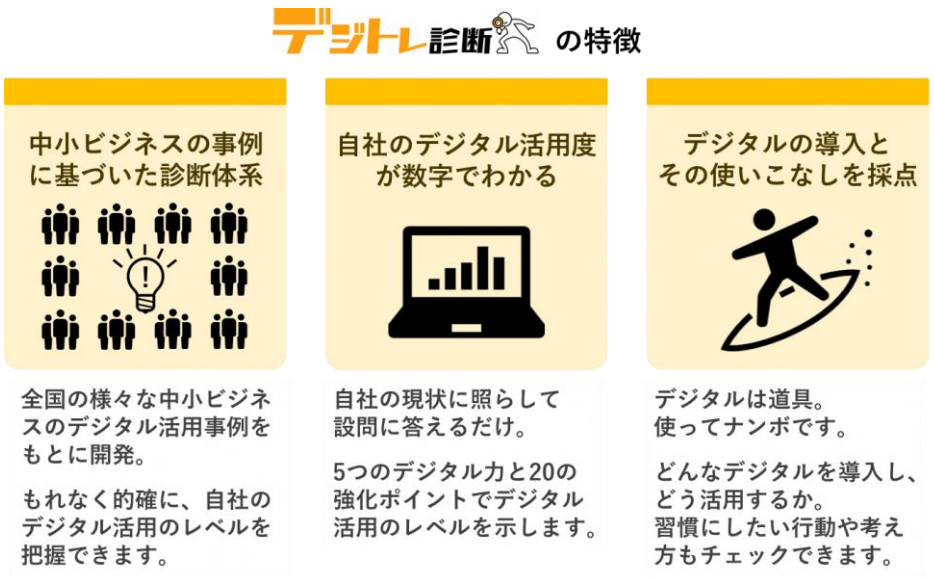


内容	第１章　目の前にあるデジタル 第２章　答えは中小ビジネスの現場にあった 第３章　デジタル－５つの活かし方 第４章　デジタル経営をはじめよう
想定読者	すべての中小ビジネスの経営者 中小ビジネスの現場で奮闘するリーダー 中小ビジネスを支える行政・支援機関職員 中小ビジネスを支える士業・コンサルタント
著者	堀　明人、飯村 和浩、坂本 ゆみか、倉田 一範 （合同会社デジトレのメンバーによる共同執筆）

カ）課題解決に向け導入及び活用したもの

４．デジトレ診断

- 経営課題を解決するデジタル技術等を選定するために、現時点で自社はどこまでデジタル技術を活用できているのかを自己診断ツール「デジトレ診断」により定量化しました。
- デジトレ診断は、実際の中小企業等のデジタル活用の事例を分析して整理体系化したもので、情報システムなどデジタルツールの環境整備の状況と、システムやデータを活かすための組織としての習慣化の現状を、独自の指標である「5つのデジタル力」と「20の強化ポイント」で定量化しました。
- デジトレ診断の設問は、模範的な取り組みを集めたベストプラクティス集となっており、設問に回答しながら模範とすべきデジタル活用の取り組みや視点を学び取ることで、デジタル活用のテーマの選定や優先順位付けをサポートしました。

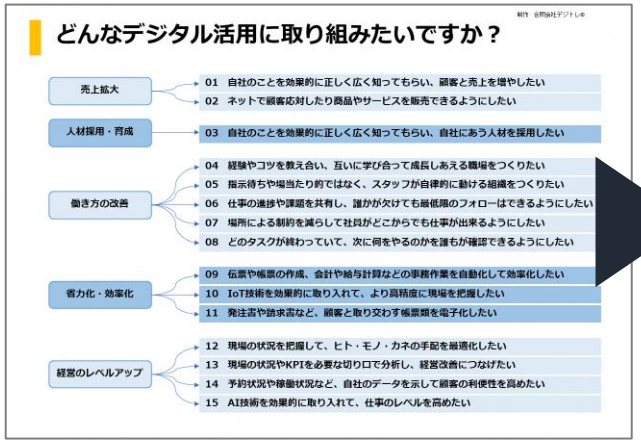


カ）課題解決に向け導入及び活用したもの

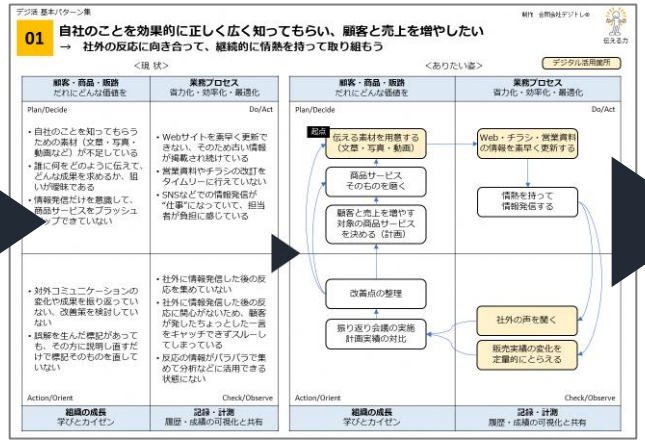
5．デジ活 基本パターン集

- デジタル活用のテーマが決まったら、どのように具体的に取り組んでいくかを、「デジ活 基本パターン集」をひな形として活用して自社のデジタル化計画を作成しました。
- デジ活 基本パータン集は、中小企業の支援現場で、ITコンサルタントが実際にアドバイスしている取り組みを15種類のよくあるケース別に整理したものです。
- それぞれのケースについて、取り組みの全体像とToDoが整理され、実現ステップも明示されていますので、それらを参考にしながら自社におきかえてカスタマイズしました。
- 具体的に活用できるデジタルツールの例示もされていますので、どのような種類のデジタルツールの情報収集やお試し利用をすればよいのかが簡単にわかるようになっています。

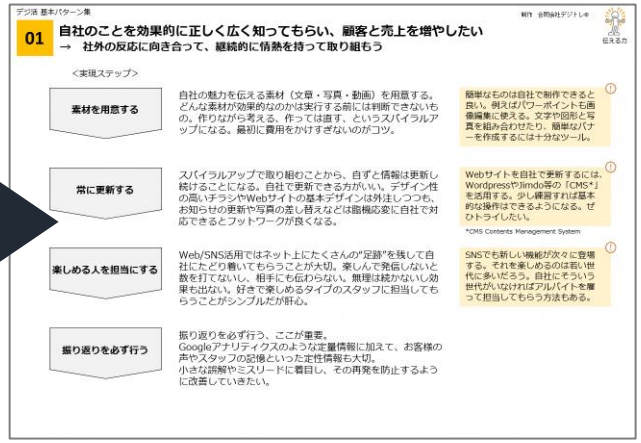
1．基本パターンを選ぶ



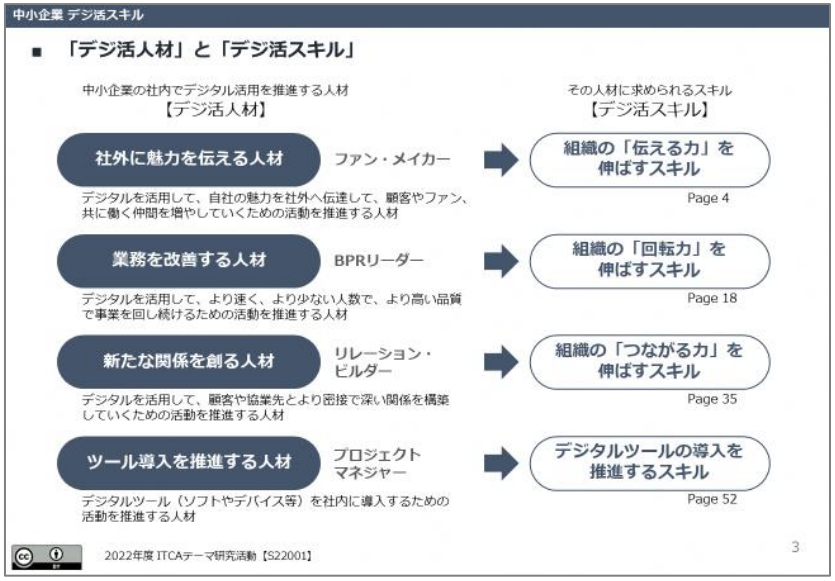
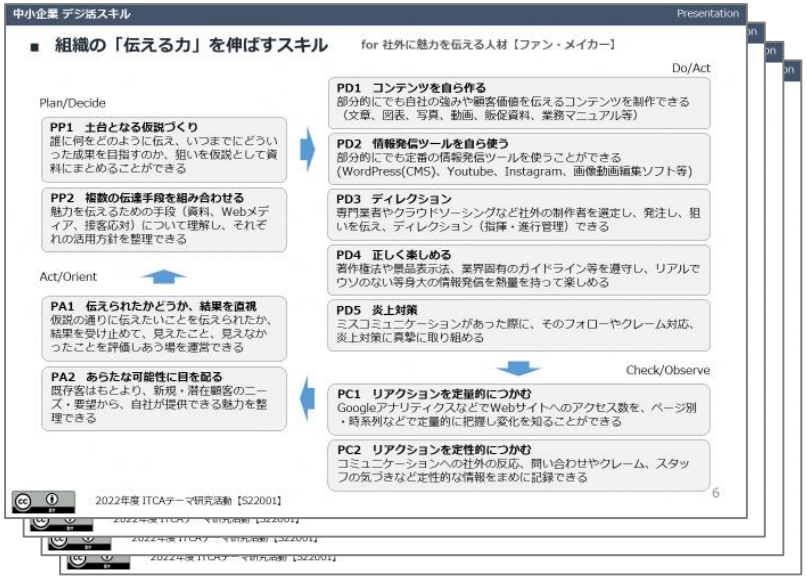
2．全体像とToDoを学ぶ



3．ステップに沿って取組む



カ）課題解決に向け導入及び活用したもの

6．デジ活 スキル定義

- 中小企業がデジタル技術を上手く活用するためには、経営者の方針に加えて、現場で具現化する人材の力も必要です。デジタル化計画の実行段階でどういった人材が必要になるのか。現有人材の活用に、社外人材の手配を含めた実行体制の検討に際して、本スキル定義を活用しました。
- 本スキル定義は、中小企業のデジタル活用を支援するITコーディネータが集まって制作されたもので、中小企業においてデジタル活用を推進する人材に求められるスキルを体系的に定義し、情報発信ツールの活用やデジタルツールのお試し利用など、中小企業のDXに役立つ55種類のスキルを明らかにしています。